

オンラインセミナー「学校 CHLOOS」（2023.10.16）参加者の感想

- 自分の必要感に合った話題で、とても勉強になりました。教員本来の仕事に立ち返るという意味で子どもと直接関わる時間を大切にしたいと思いました。
- 教師も保護者もこれからの教育について、未来からの逆算思考で考えていくことが大切であると言うことを思いました。
- 取り組みのきっかけ、プロセス、効果と大変わかりやすく解説してもらえてとてもよかったです。
- 教師の働き方の文脈だけで宿題を出さない（家庭にお願い）とすると、子どもたちの幸せにはつながりませんよね。大人も子どもも well-being な社会の一員である、そして、学校や家庭は子どもたちの幸せのために何ができるのか？と言うことを考えながら取り組む一つの具体をいただいたように思います。勤務校でも少しずつですが、これまでの「当たり前」を見つめ直して進んでいきたいと思います。
- 本日はありがとうございました。教師の役割とは何なのかを整理し、子供にとって価値のある活動を提供しようという願いの先が、一律の宿題廃止だったのだなと思いました。自ら学びを進める子ども、そして、学ぶ楽しさを実感する子どもが育っていること。それを実現するために、保護者には何度も、様々な方法や機会をもち説明していることも納得でした。子供が自らの学びを言語化できることを大事にしているというのが、今回、私自身の何よりの学びでした。ありがとうございました。
- 先生のお話をおうかがいするまでは「家庭学習」は廃止すべきではないかと思っていました。ただ「岐阜小の家庭学習」は全く違うものだということを知ることができ、先生にお会いできたことをとてもうれしく思いました。「家庭学習を通して子どもと対話ができるのは小学校だけだよ」という言葉は、本当にそうだなと思いました。言語化できているかどうかの基準がこの取り組みのポイントだと思いました。「授業」と「家庭学習」の循環もできる、この取り組みは「岐阜小式家庭学習」とか別の名前をつけて、もっと広がればいいのになと思いました。
- 私のクラスで、「宿題は廃止すべきだ」というテーマでディベートを行いました。子どもたちが調べ学習をする中で、岐阜小学校の事例と出会いました。そのときは、「家で勉強することを排除するということか??」としましたが、大きく違っていたことがわかりました。子どもたちの学びを、学校と家庭でも、一緒に見届けて向き合えるようにしていきましょう、ということだとわかりました。保護者の理解、職員の理解があつてのことだと思いましたので、仕組みをどう作るか、ということが重要なのだと思いました。時間はかかるし、数年後を見越した取り組みかと思います。子どもの未来を語り合うためにも、非常に参考になりました。
- 藤田先生の穏やかな雰囲気の中に「これからの子どもたちが本当につける力、進む方向」についてぶれない思いがあるのを感じました。「学びとは何か」「教師のすることは何か」を対話しながら説明も尽くして進めていくことの大切さも学びました。私自身、意見の衝突を恐れ、前へ進めないことが時々あります。健全な衝突は、むしろ必要だと考えて、取り組んでいきたいと思います。子どもがキラキラした目で「学んで楽しい!」と言えるよう、がんばりたいと思います。今日はありがとうございました。
- 今年度は、私も全員一律の宿題は課していません。「やっぱりそうだなあ」と安心したり「そこは足りてなかったなあ」とハッとしたりしながらお話を聞かせていただきました。藤田校長先生の「相談の機会にする」という言葉が印象に残ってます。この言葉から、子どもに「宿題」として課しているうちは、マイナスの関わりが増えてしまうことに気付きました。（「間違いばかりだ」とか「どうしてやっていないんだ」など）、一方で「家庭学習」では、プラスの関わりが増えることに気付きました。やっぱり「宿題」で子どもを追い詰めてしまうようなことはしたくないです。教師の本当の仕事・役割についても再考することができました。ありがとうございました。
- 一律の宿題をなくすことで、これほど良い面が増えることは想像していませんでした。しかし、藤田校長先生の実践をうかがう中で、これは「ありだな」と頷いている自分がいました。実際に自分の勤務する学校で可能かどうか、どのように保護者や先生たちに下ろしていくか、今一度考え、この取組を広げていこうと思いました。藤田先生、今回は貴重なお話を頂き本当にありがとうございました。
- 勉強になりました。期間を見るとあっという間に達成されているのにじっくり対話を大事にしながら進められているのが印象的でした。